



日本洋書協会

JAPAN ASSOCIATION OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

JAN 2015
REPORT MAGAZINE

会報誌 vol. 49 no. 1

Published by JAIP 1-32-5 U.S.P Higashishinagawa Shinagawa-ku, Tokyo 140-0002

Call:03-5479-7269 e-mail:office@jaip.jp

新春理事対談

山川：今日は新春理事対談のためにお集まりいただきありがとうございます。昨年につづき、業界の状況を掴むヒントとなる情報を提供できればと思っていますが、改めて協会のディレクトリを眺めてみますと、当然ですが雑誌よりもいわゆる洋書（書籍）にかかわるビジネスをされている会員が多いことに気づきます。そこで、今回は洋書を中心に業界の状況を話し合ってみたいと思います。

洋書の話題に入る前のウォーミングアップとして、本日既に皆様と外雑（外国雑誌）市場についてお話をしましたので、その部分について私の方で簡単にまとめさせていただきます。

まず、2014年のニュースとして、Swetsの倒産に触れなければなりません。この倒産で日本の外雑取次市場から海外勢が完全になくなりました。JAIP Web SiteにDan Tonkery氏（EBSCO）のインタビューを掲載しましたが（2014/6/24）、彼は「この産業は、今後この産業外の人に来て、ビジネスモデルを変えなければ駄目だ」と言っていました。そのすぐ後にSwetsの倒産が起きたので、やはり、どれも儲かっていないのだなと思った次第です。外資がやっても手間は掛かるし、ビジネスモデルとして本当にやってけるのか、今後どうやってこの産業を変えていくかということが、われわれの課題だと考えています。

また、市場の面では土方さんがおっしゃったように、大学等の予算縮小の上に誌代の値上がり、円安、消費税（増税と不課税）の問題があり、2014年は単価の高い医学や法律関係の継続物が大幅にキャンセルされました。そして、それらの問題を解決する選択肢として雑誌を論文単位で購入するPay Per ViewやTokenという購入形態が顕著に伸びを示していました。大手出版社のElsevierやWileyがビッグディールをやめようという動きと相まって、購読と論文単位の購入の併用のような形は今後も増えていくのではないかと思います。



細谷さんから質問の出たオープンアクセス（ユーザーから購読料を取らずに著者から投稿料を取るという提供形式）の台頭は、代理店の立場を揺るがす要素ではありますが、欧州や米国と違い日本ではまだゆっくりと進んでいて、今後も一定レベルまではその提供形態が広まるものと思われるものの、3割程度までにとどまるのではないかとの希望的な予測もあります。

外雑についてはいろいろと問題があり、まったく楽観はできませんが、市場の変化に合わせていかなければならない、というところだけは間違いのないことです。

さて、それでは本題の洋書（書籍）市場に話を移したいと思います。初めに基本的な情報の確認をしたいと思います。私たちのいる洋書市場の規模は一体どのくらいなのか？実は、正確な情報は何もありません。しかし、エスティメートではなくてゲスティメートであっても、それを大体掴んでおく必要があるかと思います。

土方：基本的には外国語出版物の市場規模は、よく分からないのです。10年ぐらい前から数年前までは、大体1,000億円の市場だと言われていました。しかし、今は、図書館の予算の推移や業者の減少などを考慮すれば、800億ぐらいではないかと思っています。その中で洋書（書籍）は

という、通関統計などから推測して、あくまでも私見の範囲ですが、Amazonを含めて大体400億ぐらいではないかと思われます。日本の出版の規模から比べれば、小さな規模だと思います。実際はAmazonの洋書の売り上げについてはよくわかっていませんが、輸入商品の20%とか、10%とかいろいろ言われているようです。

マーク：私も日本の書籍の総売り上げはおそらく400億ぐらいだと考えています。Amazonの最近の数字は分かりませんが、5~6年前はAmazonの日本全体の売り上げが one billion dollars (約1,000億円) と聞いたことがあります。それにはカメラやお米など全部の商品が含まれていますが、その3分の1の300億ぐらいが本だと思います。さらにそのうちの3分の1が洋書で、5~6年前はそれが100億でしたから、われわれ、Amazon以外の業者は300億ということになるのではないかと思います。

山川：松村さん、いかがですか。そのようなところでしょうか。

松村：はい。非常にmake senseだと思います。Amazonが100億という話は確かに聞いたことがあります。

山川：皆さんにいろいろGESTIMATEを出していただいたのですが、今までこういう数字は出したことありませんから、やはり参考にはなると思います。書籍は大体400億ぐらいと捉えることにいたしましょう。ちなみに書籍の市場を見てみると、一番大きな市場はやはり大学市場でしょうか。

土方：そうですね。丸善で言えば、大学市場が一番大きい。大学市場の中での分野別に見ると、金額ベースで、人文社会系が一番大きく6割5分、STM系が3割5分ぐらいになります。

山川：書籍分野の問題点というのは、特に小売りではどんなことがあるのでしょうか。

相澤：まず、予算の問題。それから、ここ1~2年は円安が非常に大きいですね。

小松崎：円安の影響は大きいですね。会社としては、やはり本の価格に転嫁できませんから。在庫をたくさん持っていることもありますが、すぐには変えることはできません。うちは絵本のことしか分からないので、図書館がどうかは分かりませんが。

細谷：私の場合は、書籍ではフランスがメインなのですが、学術機関向けビジネスではほぼ99%が人文社会系です。1年前の懇談会と重複しますが、問題なのは2つの面で市場が縮小していることです。フランス語書籍の市場はアカデミックが第一ですが、大学市場が縮小していることに加えて、経済・法律などをフランス語で読めるユーザーが減ってきていることが一つ目の問題です。二つ目の問題はフランス語書籍を販売する専門分野のブックセラーが減少していることです。昔は歴史や法律のみを扱う本のエキスパートのいる書店が多くありましたが、この30年の間でだいぶ廃業したり、規模を縮小したりしています。本のソ

ムリエ的に「この大学、この分野にはこの本をお薦めします」と言えるような、エキスパートは少なくなってしまいました。

山川：そうですね、それはフランス語だけじゃなくて、全体的にそうですね。

細谷：ただ、数人でやっている非常に個性のあるお店が、ブックだけの販売ではなく、ほかのアートに関連するものや雑貨も販売していて、マスコミに取り上げられることがあります。その人の個性で売るといような書店も少しずつ出てきているようです。

相澤：そうですね。時代の流れで20年、30年前とはいろいろ変わってきていると思います。うちはかなり個性的な営業マンを揃えてきたつもりですが、だんだん均質化されつつありまして、「もっと大学や一人一人の顧客のところピッチリ入り込んで掴め」と言っているのですが、昔に比べたら入り込み方は非常に弱くなっています。また、大学や研究者の側も変わってきています。昔は情報を提供する営業担当はリスペクトされたこともありましたが、最近逆にはシャットアウトされる場合が多いようです。特に30-40代の若手クラスの研究者にそういう傾向が強いと、現場の営業マンから聞いています。

山川：書籍の世界というのは、先生とのフェース・トゥ・フェースが非常に強いんですね。これからどういうふうに変わっていくかということが大切になりますね。

松村：まあ既に随分変わってきていますね。先生方個人、研究者の姿もだいぶ変わってきましたし、先生方の裁量権については、金額を含めて相当に狭まっていますから、なおさら大変だと思います。

小松崎：でも、専門性に期待された部分ってありますよね。あれは一体どうなるのでしょうかね。うちは絵本だから、絵本をよく知っていることは絶対条件で、そこは任せて置いておくんですけど、そういうのがなくなっていくのでしょうか。

相澤：うちのことで言いますと、先ほど営業マンの話をしてきましたが、少なくとも人事系の情報やデータをしっかり持っていく必要があるということで、ニュースやデータをまとめた資料を作っている部隊を5名、ずっと維持しています。50名足らずの会社で、専門、専任でやらせていますから、相当重要だということです。一部の昔から付き合いの長い図書館や先生方からは、非常に貴重なデータ、資料を供給しているという点で感謝されているのですけどね。

山川：やっぱりそう言ってほしいですね。

相澤：そういうところですね。

山川：次に、ELTについてもうかがってみたいと思います。松村さん、ELTも洋書市場の相当大きな比重を占めるとは思いますが、いかがでしょうか？

松村：市場規模といういろいろな捉え方がありますが、100億と言う人もいれば、50億ぐらいだと言う人もいます。

今、英語教育の強化が叫ばれていますので、追い風ではありますが、少子化がそれに加わり、結局全体の金額は少し小さくなっているかもしれません。

マーク：そうですね。でも規模を考えるなら本当はdefinitionが必要ですね。例えば、われわれ外国の出版社のビジネスだけで考えると何らかの数字は出せるかもしれませんが、実際は日本の出版社もかなりありますよね。NHKや学校の教科書、それに辞書などを含めると、多分300、400億はあると思います。しかし、それはほぼ和書です。洋書を取り扱っているのは、センゲージ、ケンブリッジ、ピアソン、オックスフォード、マクミラン、マグロウヒル全部含めて、多分40～50億ぐらいじゃないかなと思います。

山川：そうすると、例えばELTの市場規模が50億だとすると、洋書の中で占める割合は大きいですね。

土方：2012年の大学の図書館の洋書の購入額が74億ぐらいですから、それに近いところはあるという意味では、結構大きいですね。

ちなみに今年の傾向は横ばいだったようです。グローバル化で英語教育が盛んになっているのでかなり期待したのですが、店舗関係の人に聞いてみたら、お店でも横ばいの印象だということでした。結局少子化との掛け算で、横ばいだったのかなという気がします。

マーク：この間タクシーの運転手さんと話していたら、東京オリンピックに向けてドライバーもある程度の英語を勉強しているそうです。でも、1週間に1回、本も使わず、コピーした教材を使って、「Where to～」のようなことを勉強しているそうで、本当の英語の勉強ではないですね。ですから、そのようなマーケットに対して期待すると思いますが、なかなかビジネスにはならないのかなと思います。

小松崎：でも、英語教育の低年齢化は進んでいるのではないかと思いますよ。幼稚園や赤ちゃんだとか、小学校も絶対入っていますし、その辺りはこれから変わってくると思います。英語が苦手な親ほど「小さいうちからやればいいんじゃないか」って思うようですよ。すごいですよ、うちの店に来る方たちも、絵本というよりも「絵本で英語を」というお母さんがみえる。

山川：でも、そこまで勉強して、実際にプラクティスする機会ってあるのですか。

小松崎：それとはまた話は別です。

土方：そういうふうになりたいと、文部科学省は考えているということですよ。

山川：しかし、戦後の植民地支配が関係していますが、東南アジアの国々が英語を母国語と同じぐらいに話せるのに対して、中国、韓国、日本という北東アジアの国々はそうなっていませんからね。

土方：まあ難しいですね。

小松崎：それでも少子化で、若い人口がどんどん減って、労働力が足りなくなるという問題がありますよね。

松村：外国人がどんどん流入してくるでしょうし、外国人を採用しなければ労働力を賄えないという意味では、多分英語が話せないとなかなか難しくなるでしょうね。

マーク：同じ意見です。コンビニやファストフード店で働くとか、夜に掃除する日本人はどんどん少なくなると思います。アメリカやカナダ、イギリスでは移民が多く、いいかどうかは別にして、大変な仕事は移民の方達がしています。それで自分の子どもたちが大学に行き、たとえば先生になったりします。現在、日本では法律的に移民は難しいので、そういうことはなかなかないのではないかと思います。いつか人口が9,000万人ぐらいになったら、そのときにはやはり大変じゃないかなと思います。まあ地下鉄の朝のラッシュを考えたら、別にいいかもしれないと思ったりもしますが(笑)。

山川：やはりこれからの国としての大きな問題は人口減少ですね。移民が入って、日常にそういう人たちが増えても、そんなにきれいなブリティッシュイングリッシュやアメリカンイングリッシュを話す人はあまりいないでしょうから、インターナショナルイングリッシュの世界になっていくと思います。それは、われわれにとってビジネスチャンスでもあるわけですね。そういう本を売るのも、商売の一つかもしれませんね。

ありがとうございます。今のところソリューションは何もありませんが、まとめると、昔はコミュニケーションの手段は、最初はフェース・トゥ・フェースでした。その次は手紙とか本、紙しかなかったのです。それで電話が発明されて、それからファクスが出て、今のネットの時代になって、もうメディアが非常に多様化してミックスしている。その中で、本や雑誌っていうものは、これからどんどん形を変えていくようになるから、われわれも、それに合わせていかなければいけないということではないかと思えます。

そしてこのソリューションは、結局、次の若い世代が考えてくれる問題だと思います。今、皆さま方のところに30代、40代の若い人材がたくさんいると思いますが、その方たちにはもっと将来のことを考えてほしいと思いますし、私たちがみたい年寄りが「こうしろ、ああしろ、あれはけしからん」なんて言うことは、本当は良くないと思うのです。ですから、洋書協会の人だけでなく、こういう商売をしている人は、もっと若い人にお金も時間もあげて、元気にやってもらいたいというのが私の私見でございます。それをサポートするのが、ある意味で協会ではないかというふうに思います。

土方：われわれですね。

山川：これは協会の意見ではございませんから(笑)。

土方：分かりました(笑)。

山川：最後に、皆さんほんとに今日はありがとうございました。

海外ニュース

アマゾンのクリスマス商戦を

ボイコットするキャンペーン

アマゾン・アノニマスは、アマゾンでクリスマスの買い物をするのをやめようと訴えるキャンペーンで7,000ポンドを調達した。

このキャンペーンは、アマゾン・フリー・チャレンジのサイトにサインアップして、12月1日～25日までアマゾンの買い物をボイコットすることを誓わせる。曰く、「アマゾンがそこで働く労働者に正当な賃金を支払うか、きちんと納税しない限り、アマゾンでは買い物をしません」というものだ。

アマゾン・アノニマスは言う。「アマゾンは『地球上で最もお客様を大切にする企業』とうたっていますが、私たちはそうは思いません。アマゾンが雇用者に対して、社会に対して、他企業に対して常にフェアであるなら、もっとよい企業になれるでしょう」

先週、アマゾン・アノニマスはサポーターに、このキャンペーンのための義援金を募り、1週間ですでに7,000ポンドが集

まっている。

一人3～5ポンドほどの寄付を募り、集まった資金は、ウェブサイトの管理維持や、「より多くの人に行動を共にするよう呼びかける」活動費にあてられる。また、アマゾンの不正を暴くために資金源にもなるという。

アマゾン・アノニマスは、活動家エミリー・ケンウェイが設立した。彼女は2013年12月、Change.org(社会を変えるためのさまざまなキャンペーンの署名活動などをおこなえるサイト)で、アマゾンに対して生活できるだけの賃金を支払うよう求める嘆願を始めた。結果的に55,000を超える署名が集まった。

アマゾン・アノニマスのサイトは

こちら→<http://www.amazonanonymouse.org/>

(The Bookseller online November 18, 2014より抄訳)

情報提供:U.P.S. 遠藤尚子

お知らせ

■ 新入会員の紹介 (10月1日付)

OECD

代表者: OECD 東京センター所長 村上 由美子

会員代表者: マーケティングマネージャー 樋口 厚志

〒100-0011 東京都千代田区内幸町 2-2-1 日本プレスセンタービル 3階

TEL: 03-5532-0021 FAX: 03-5532-0035

業務内容

OECD は社会・経済の幅広い分野について、報告書を年に 300 点刊行し 40 種類のデータベースを定期的に更新しています。

OECD が出版する報告書、定期刊行物、ワーキングペーパー、統計をすべて収録したオンラインデータベース OECD iLibrary (www.oecd-ilibrary.org) は、世界 163 カ国で約 6000 の大学および研究機関、企業、政府機関、NGO、地域の図書館などで購読されています。OECD iLibrary では、OECD の報告書、定期刊行物などは PDF ファイルで、報告書などに収録されている図表はエクセルファイルでダウンロードすることができます。また、OECD が世界各国から集めた統計データは、インタラクティブな統計データベースに収録されており、利用者がオリジナルの図表を作成できます。

■ 退会のお知らせ (12月31日付)

日本出版貿易株式会社

International Book Fair in 2015

Name of Fair	Date	Place	website/e-mail
Taipei International Book Exhibition	11-16/Feb/2015	Taipei	http://www.tibe.org.tw info@tibe.org.tw
Leipzig Book Fair	12-15/Mar/2015	Leipzig	http://www.leipzig-buchmesse.de info@leipzig-buchmesse.de
Salon du Livre Paris	20-23/Mar/2015	Paris	http://www.salondulivreparis.com livre@reedexpo.fr
Bologna Children's Book Fair	30/Mar-02/Apr/2015	Bologna	http://www.bookfair.bolognafiere.it dir.com@bolognafiere.it
The London Book Fair	14-16/Apr/2015	London	http://www.londonbookfair.co.uk/ lbf.help@reedexpo.co.uk
Abu Dhabi International Book Fair	07-13/May/2015	Abu Dhabi	http://www.adbookfair.com/ info@adbookfair.com
Warsaw International Book Fair	14-17/May/2015	Warsaw	http://www.bookfair.pl/ mtk@arspolona.com.pl
BookExpo America	27-29/May/2015	New York	http://www.bookexpoamerica.com inquiry@bookexpo.america.com
Special Libraries Assn. Annual Conference	Jun/2015	Vancouver	http://www.sla.org sla@sla.org
Seoul International Book Fair	Jun/2015	Seoul	http://www.sibf.or.kr/eng/ danapark@kpa21.or.kr
American Libraries Assn. Annual Conference	25-30/Jun/2015	San Francisco	http://www.ala.org ala@ala.org
Tokyo International Book Fair	01-04/Jul/2015	Tokyo	http://www.bookfair.jp tibf@reedexpo.co.jp
Hong Kong Book Fair	15-21/Jul/2015	Hong Kong	http://hkbookfair.tdctrade.com exhibitions@tdc.org.hk
Beijing International Book Fair	26-30/Aug/2015	Beijing	http://www.bibf.net/ bibfmo@bibf.net
Moscow International Book Fair	Sep/2015	Moscow	http://www.mibf.ru mibf@mibf.ru
Frankfurt Book Fair	14-08/Oct/2015	Frankfurt	http://www.book-fair.com/en/fbf/ info@book-fair.com
CIROBE	22-26/Oct/2015	Chicago	http://www.cirobe.com info@cirobe.com

海外出張・海外見本市視察

～格安航空券＋市内ホテルのお得な自由日程旅行プラン～

予約受付中の見本市（2014年12月現在）

★ *BOLOGNA CHILDREN'S BOOK FAIR*

開催時期：2015年 3月30日～4月2日 開催地：ボローニャ（イタリア）
旅行代金：¥247,000～ <3/29 出発 4泊6日 モデルパターン>
ZANHOTEL EUROPE HOTEL 滞在
その他、STARHOTEL EXCELSIOL などの利用プランがございます。

★ *LONDON BOOK FAIR*

開催時期：2015年 4月14日～4月16日 開催地：ロンドン（英国）
旅行代金：¥145,000～ <4/13 出発 3泊5日 モデルパターン>
HILTON KENGINSTON HOTEL 滞在

★ *LE SALON DU LIVRE (PARIS BOOK FAIR)*

開催時期：2015年 3月20日～3月23日 開催地：パリ（フランス）
旅行代金：¥169,000～ <3/19 出発 3泊5日 モデルパターン>
MERCURE OPERA GARNIER HOTEL 滞在

★ *BOOK EXPO AMERICA*

開催時期：2015年 5月27日～5月29日 開催地：ニューヨーク（米国）
旅行代金：¥205,000～ <5/26 出発 4泊6日 モデルパターン>
FITZPATRIC GRAND CENTRAL HOTEL 滞在

★ *FRANKFURT BOOK FAIR*

開催時期：2015年 10月14日～10月18日 開催地：フランクフルト（ドイツ）
開催プラン企画（手配・お見積もり受付中）
※MOVENPICK MESSE HOTEL など見本市会場付近のホテルを始め、
市内ホテルを多数確保しております。

☆弊社では下記見本市の旅行手配を毎年行っております。

LONDON BOOK FAIR（ロンドン）	FRANKFURT BOOK FAIR（フランクフルト）
PARIS BOOK FAIR（パリ）	HONG KONG BOOK FAIR（香港）
BOLOGNA CHILDRENS BOOK FAIR（ボローニャ）	BEIJING BOOK FAIR（北京）
BOOK EXPO AMERICA（米国）	TAIPEI BOOK FAIR（台北）

お問い合わせ：株式会社ジェイワールドトラベル

JATA正会員（観光庁長官登録旅行業第1359号）

TEL：03-3402-9955 FAX：03-3402-9698
e-mail：tet@jw-trvl.co.jp
URL：www.jw-trvl.co.jp 担当：藤代

その他、早割り航空券やビジネスクラス・ディスカウトの手配や国内出張なども取り扱っております。